

特集

ブログとRSSの可能性

ブログはここ数年で爆発的に広がったコミュニケーションの形態である。人気のあるブログには、著名な会社社長や女優のブログもある。ブログで商品を紹介したり、関連する情報のバナーを置いたりして、広告媒体となっているブログもある。携帯電話からアクセスできるブログはモブログとも呼ばれている。

一方、ブログとともに名前を聞くようになった言葉に RSS がある。RSS は最新の更新情報を手軽に提供するための技術である。Web ページに「RSS」や「RDF」というロゴがついていることもある。RSS リーダーも普及してきている。

この特集では、インターネットの世界で急速に普及したブログと、サイトのメタ情報である RSS について考察し、今後の可能性について考える。

第一部ーブログとその可能性

総務省が 2005 年 5 月 17 日に公表した「ブログ・SNS の現状分析及び将来予測」という資料によれば、2005 年 3 月末における国内のブログ利用者は延べ約 335 万人、そのうち複数のブログサービスを利用している人を除いた個別の利用者数は約 165 万人と推計されている。さらに、ブログ利用者のうち、少なくとも月に一度はブログを更新している「アクティブブログ利用者」は約 95 万人である。これはインターネット利用人口の 2.1% に相当する。

一方、ブログの閲覧者つまり少なくとも月に一度はブログを閲覧していると考えられるインターネット利用者は約 1,651 万人である。これはインターネット利用者の 20.6% にも達する。

ブログがここ 1、2 年で急速に普及したことを考えると、こうした数字は驚異的である。そこで本稿では、改めてブログとは何か、ブログの特徴や将来性はどこにあるか、ブログの次に来る技術は何か、という点を考えてみたい。

1. ブログとは何か

ブログ (Blog) は元々「ウェブログ (Weblog)」から来ている。文字どおり、「ウェブ」の「ログ (log)」つまり「記録」のことである。日本においては、個人の「日記」を公開するという用途が多いが、必ずしも日記を付けることを意図したシステムではない。ブログの発祥地であるアメリカやヨーロッパにおいては、日記というよりも、個人のニュー

スサイトとしての利用が多いという話も聞く。したがって、「ブログ＝ウェブ上に公開された個人の日記」という図式は正確ではない。

ブログとは本質的に、「カテゴリに分類された記述のまとめ（記事＝ログ）を時系列に並べて表示する Web ページ」のことである。ブログは一般に、CGI を使ってデータベースから自動的に Web ページを作成する。なぜブログが日本において「日記」となったかについては、社会的・文化的な側面からの回答が必要だろうが、少なくとも技術的な側面からの回答の一つは、ここに述べたように、ブログが時系列で「ログ」を並べるからである。

ブログはアメリカの Six Apart Ltd. が開発した Movable Type が元祖であると言われている。9.11 のテロ以降、アメリカで、友人や知人の安否を知るために利用され始めたことで流行したそうである。

ブログの普及には、大手プロバイダーやポータルサイトが、無料でブログを使用できるようにしたことが大きく貢献している。2005 年 5 月現在、一般ユーザ向けにブログサービスを提供している事業者は少なくとも 115 社ある。ブログサービス事業者は、次のタイプに分類できる。

- プロバイダー系事業者
- ポータル・EC 系事業者
- その他の周辺サービス事業者（ホスティング・広告など）
- ブログ専門の事業者

大半のブログサービスは無料なので、ブログ自体から収益を上げることは難しい。したがって、多くの事業者にとってブログは集客を目的としたサービスである。その意味において、ポータル・EC サイトを運営したり、その他の周辺サービスを提供したりする事業者には、ブログ利用者や閲覧者の存在は魅力的であろう。

ブログが浸透し、今後は写真付きブログ

などの利用者が増えることを考慮し、ブログサービス事業者の中には、有料で付加サービスを提供するところも出てきた。たとえば、ポータル事業者の goo は「使って納得！一歩先行く goo ブログアドバンス」というキャッチコピーで、月額 290 円（税込）の「goo アドバンスパッケージ」を提供している。このパッケージには、(1)1T（1024GB）の画像容量、(2)デザイン編集機能の強化、(3)アクセス解析機能、(4)データバックアップ機能、(5)アフェリエイトリンクの許可の機能やサービスが含まれている。さらに補足すると、現時点で「goo アドバンスパッケージ」には、ブログの追加機能以外に、goo メールアドバンス（2GB の容量とウィルス駆除）、goo ブロードバンドナビ（毎月、厳選動画 10 本見放題）などのサービスも入っている。（<http://blog.goo.ne.jp/info/advance/> を参照）

2. ブログの基本的な仕組み

ブログの利用形態は様々であるにせよ、その基本的な仕組みは同一である。そして、こうした技術的な側面は、ブログのあり方を規定している。

一般に、ブログのシステムは CGI として存在する。著名なブログシステムである MovableType も CGI である。したがって、プロバイダー等からホームページのスペースを借りて独自でブログシステムを構築しようとする場合は、そのプロバイダー等が CGI の使用を許可している必要がある。

それでは MovableType を例にとってブログシステムの仕組みを考察してみよう。MovableType は CGI スクリプトと Perl を利用している。実際のデータはデータベースに格納されており、要求にしたがって Web ページを生成する。ブログシステムの基本的な仕組みは図 1 のようになる。

Web ページのレイアウトや構成は、「テンプレート」によって定義する。「テンプレート」をカスタマイズすれば、好みの構成やレイアウトにできる。MovableType では、ブログの内容が表示される、ブログタイトルと記事エントリの部分と、カレンダーや検索ボックスなどの「サイドバー」がある。標準的な MovableType では、メインページの左側がエントリ部分、右側がサイドバーになっているが、「テンプレート」をカスタマイズすれ

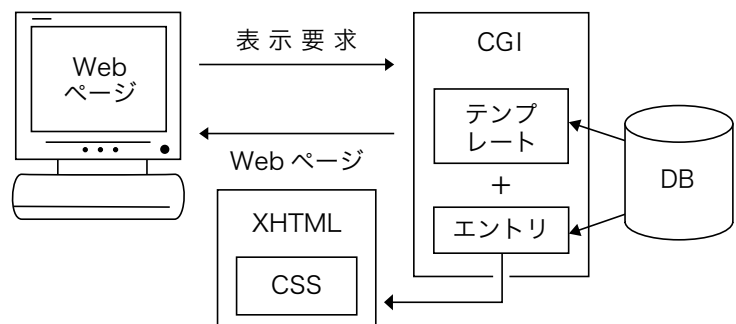


図 1：ブログシステムの基本的な仕組み

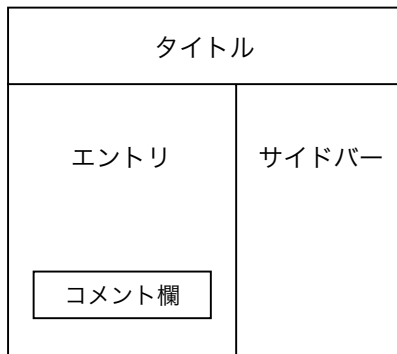


図 2：ブログ画面の基本構成

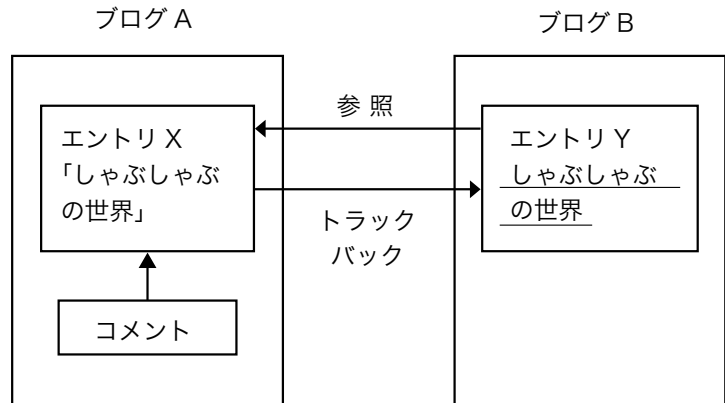


図 3：コメントとトラックバック

ば、左右を逆にしたり、3つの欄を持つ構成にしたりできる（図2を参照）。

「テンプレート」の修正は、HTMLの知識があれば基本的に大丈夫である。それにテンプレートに登場する変数名が MovableType でどのような意味を持っているかを知っていれば十分である。

ブログの中には、文字や背景、また画像を駆使して「クールな」デザインを実現しているものがある。このように文字修飾や背景の変更などを行うには、「スタイルシート」である CSS を変更する必要がある。MovableType の場合、スタイルシートを変更するには、ブログ管理画面から「テンプレート」に進み、テンプレート画面で「スタイルシート」を指定する。

「スタイルシート」の修正には、HTML と CSS の知識が必要である。CSS は HTML とは独立しているので、CSS 側は HTML のタグ名を「セレクト」で指定して参照する。または HTML 側で「クラス」や「ID」を指定し、CSS 側の「セレクト」でそれを参照する方法もある。

例：`h2 { color: gold }`

この CSS の指定はテンプレートの `<h2>` タグの文字色を「金」にする。

それでは、ブログに表示する内容はどのように制御されるのだろうか。

MovableType では、ウェブログの「設定」画面で各種の指定を行うことができる。たとえば、ブログのトップページに掲載する記事は「何日間」表示するか、また表示する順番は「新しいものが上」にするか、「古いものが上」に

するかを指定できる。「何日間」表示するかの妥当な日数は、ユーザの更新頻度によって変わるだろう。デフォルトは「7日間」になっている。期限を過ぎたものは「アーカイブ」に移る。また一般的に表示順は「新しいものが上」だろうし、それがデフォルトである。

このように技術面から見ると、ブログは Web ベースの汎用的なシステムでありながら、HTML の機能を生かしてユーザごとにカスタマイズできるようになっているという特徴があり、それゆえに普及したといえる。

自分でブログシステムを構築するのではなく、ブログサービスを提供している事業者の機能を使う場合は、使用できるテンプレートがいくつも提供されていたり、写真の投稿機能があったりするが、同時にユーザが変更できる範囲を制限していることもあるかもしれない。しかし、ブログのテンプレートに script タグを入れたりして悪意のある Web ページを作成しようとする人もいるかもしれないことを考えると、セキュリティ上、制約があってもやむをえないと考えるべきだろう。

3. ブログの特徴

ブログの持つ特徴の中で、ここで注目したいのは「トラックバック機能」と「RSS 対応機能」である。

あるブログ A にエン트리 X があったとする。たとえば、「神戸牛」に関するブログで、「しゃぶしゃぶの味」に関する記事があったとする。この記事について、他の人が自分の意見を述べたい場合は、基本的に 2 つの方法がある（図 3 を参照）。

1 つはコメントを書くことである。ブログ A の記事 X の

ページにあるコメント欄に、必要な項目を記述して投稿する。そうすると、このコメントはブログ A に保存される。コメント機能だけを見れば、ブログは機能面で従来の「掲示板」機能と大差ない。

もう 1 つは、自分のブログ B の記事 Y の中で、その「しゃぶしゃぶの味」についての意見を述べるという方法である。そして、自分の記事 Y を自分のブログ B に投稿する段階で、ブログ A の記事 X を参照していることを URI で明示的に指定するのである。そうすると、記事 Y 自体はブログ B に保存されているが、ブログ B からブログ A に対して、記事 Y は記事 X を参照しているという通知が送られる。これにより、ブログ A は記事 X を参照した記事が、ブログ B の記事 Y にあることを知り、記事 X を表示するときにこうした参照情報があることを追加して表示できる。こうした機能を「トラックバック」という。

自分がどこを参照しているかは自分の持っているリンク情報からすぐに分かる。しかし、自分がどこから参照されているかという情報は、入手が簡単なようで実は難しい情報である。いわゆる逆リンク情報である。

たとえば、ブログや日記の世界から離れて、リンクや相互参照が多くあるマニュアルの内容を更新することを考えてみよう。ある箇所の修正が他の部分にどのように影響を与えるのか、またある部分の内容を修正すると他のどの部分を見直す必要があるかは容易には判別できない。自分がどこを参照しているかのリンク情報はあっても、自分がどこから参照されているかの情報はなからである。

こうした意味において、「トラックバック」機能を実現したブログは、リンク機能の発展を示唆するモデルとなる可能性を秘めている。

なお、ブログでトラックバック機能を使うには、関係するブログでトラックバック機能が適切に設定されていなければならない。

もう 1 つ注目できるのは、RSS 対応機能である。RSS とはブログの更新情報を公開するデータであり、XML で記述されている。RSS については、第二部で取り上げるので、ここではブログに関する意味合いだけ述べておく。

ブログには積極的に更新情報を発信するという特徴がある。ブログの記事を投稿時に ping サイト（ブログの更新情報を受け付けて公開してくれるサイト）へ更新情報を送ることができる。また RSS によって最新の更新情報を公開できる。

このような更新情報の発信により、ブログはアクティブ

なメディアになっている。

4. ブログの可能性と SNS

ブログは個人の日記だけでなく、企業の最新情報（What's New）や FAQ の Web ページなど、時系列に記事を並べて表示したい場合に使われている。ブログの現在の使用形態だけでなく、ブログの基本機能や特徴に立ち戻り、先入観を排除して用途を考えていくなら、さらに利用分野は広がるであろう。

もちろんブログは、テンプレートを HTML で記述するため、HTML という視点から見れば、あらゆる Web ページを記述できるかもしれない。それはブログの特性ではなく、HTML の特性である。したがって、安易に Web ページをブログ化することは慎むべきだろう。むしろブログの特性である、「カテゴリに分類した記事を時系列に並べて表示する」という機能と相性がよいなら、Web ページや Web システムをブログで構築するにはメリットがある。システムとしてある程度完成されており、カスタマイズで対応できるからである。

さて、2005 年 5 月の総務省の報告によると、ブログよりも利用者が大幅に増えると予測されているサービスがある。それが SNS つまり「ソーシャルネットワーキングサイト」または「ソーシャルネットワーキングサービス」と呼ばれるものである。SNS の代表的なものには、GREE（グリー：<http://www.gree.jp/>）や mixi（ミクシィ：<http://mixi.jp/>）がある。

SNS はコミュニティ型の Web サイトである。ブログと同様の機能を持つだけでなく、掲示板やコミュニティ内のメール機能を持っていることもある。しかし、ブログとの決定的な違いは「非匿名性」である。つまり、基本的に SNS には、すでに会員になっている人の紹介がなければ入れないため、事実上「匿名」ではない。もちろん、名前を名乗る必要はないのだが、だれの紹介か、あるいはだれと友人かが分かるようになっているため、「匿名性」が薄められている。

ブログは基本的に「匿名」の世界であり、不特定の人からのアクセスを受け付けている。不特定のユーザとのコミュニケーションツールである。これは同時に、記事やコメントの中に誹謗中傷などの入り込む余地があることも意味している。その点で SNS は誹謗中傷などの生じる可能性は少ない。

SNS の利用人口は、2005 年 3 月末時点で、延べ約 111 万人、複数の SNS への掛け持ちを除いた純参加者は約 105

万人と推計されている。SNS 参加者のうち、少なくとも月に一度は SNS を利用するアクティブな参加者は約 80 万人である。

総務省によれば、2007 年 3 月末には、SNS 参加者が延べ約 1,042 万人、アクティブな SNS 参加者が約 751 万人になると予測されている。

同時期のブログ利用者が延べ約 782 万人、アクティブなブログ利用者が約 296 万人という予想値と比べると、SNS の普及がこの数年で急速に進むと考えられていることが分かる（図 4 を参照）。

SNS が成功した事例としては、熊本県八代市が 2004 年 10 月に始めた「ごろっとやっちろ」というサイトがある（<http://www.gorotto.com>）。自治体の電子コミュニティとして、掲示板に代わって構築された。八代市民が会員の紹介で入会できる。掲示板の機能はあるが、あくまで市民同士のコミュニケーションツールである。

SNS は認知度がまだ低い、注目すべき Web 技術である。

SNS は企業が顧客を囲い込むのに適したツールである。また、これまで「フォーラム」や「掲示板」を利用していた共通の関心事や背景を持つグループが、SNS に移行することも考えられる。そして、もっとも期待できるのが、企業内のグループウェアが SNS へ移行する可能性である。SNS はポータル的な要素を持っているからである。

SNS にせよ、ブログにせよ、Web 上のツールをカスタマイズによって構築できる点が共通している。いわば「ソフトウェア」のパッケージを使って、個人やコミュニティを満足させる Web ページを構築できるようになったのである。この点で、Web も新たな段階に入ったといえるかもしれない。

また、ブログや SNS は Web を使ってどのようにコミュニケーションを図るかという点でも、メールや掲示板にはないパラダイムを提供している。

こうした技術の萌芽が、今後の Web を動かしていく現実的な力となるのかもしれない。

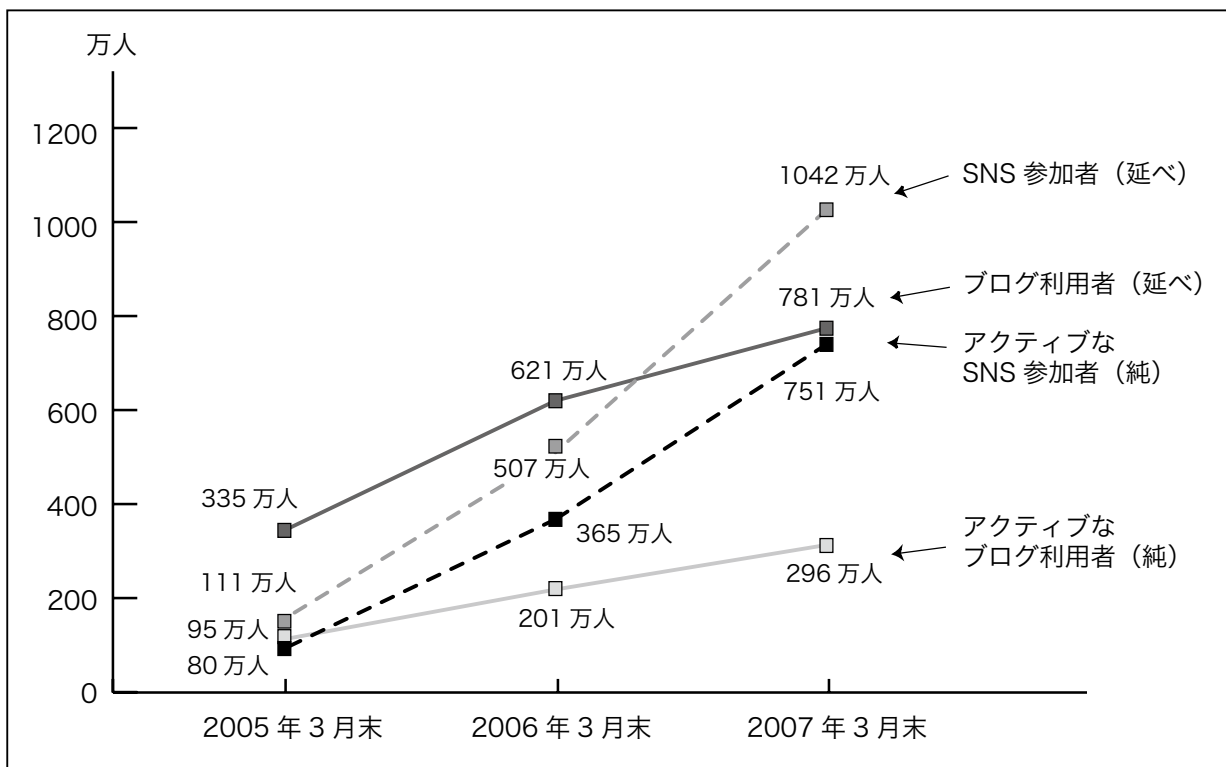


図 4：ブログと SNS の利用者の増加予測

第三部＝RSSとその可能性

ニュースの Web サイトを見ていると、「RSS」というマークを目にすることがある。またポータルサイトで、RSS リーダーのダウンロードができるという案内があることもある。では、RSS や RSS リーダーとは何だろうか。RSS にはどのような可能性があるのだろうか。

1. RSS とは何か

RSS とは、サイトの更新情報などを XML の形式で配信するデータのことである。この配信データを RSS フィード (RSS Feed) という。RSS を使用することにより、サイト運営者は最新情報を公開できる。また、サイトの閲覧者としては、効率的に情報を収集できるようになる。実際、サイトを直接閲覧するのではなく、RSS だけを収集してサイト更新の有無を確かめ、必要があればサイトを閲覧するという技術者も増えてきている。

実際に RSS を使ってデータを配信している二つの例を調べてみよう。

一つはコンピュータ関連の技術書を出版している「技術評論社」のサイト (<http://www.gihyou.co.jp/>) である。このサイトでは、RSS を使って、サイトで紹介している新刊書籍や新刊雑誌の情報を配信している。RSS データの一部をリスト 1 に示す。RSS はサイトの Web ページの更新情報としてではなく、新着情報の配信のために使われている点が興味深い。

もう一つは、シェアウェアなどのダウンロードサイトである「Vector」のサイトである。その RSS の一覧ページに進むと (<http://www.vector.co.jp/rss/>)、取得できる RSS フィードが表示される。RSS で提供されるデータの一部は次のとおりである。

- ベクターソフトニュース：新着ソフトレビュー
- 週間総合ダウンロードランキング
- ベクター PC ショップニュース
- PC ショップランキング：パッケージソフト

Vector はほかのデータも RSS で提供している。ここで注目できるのは、ニュース提供に加えて、販売製品のランキングが RSS で提供されていることである。ある週の Windows 用のダウンロードソフトのランキングの RSS フィードの一部をリスト 2 に示す。

このように RSS は単なるサイトの要約情報や更新情報と

いう「メタデータ」の領域を超えて、サイトが提供したい「配信データの形式」として使われるようになっている。

2. RSS の歴史

注意深い読者は、リスト 1 の RSS と、リスト 2 の RSS では、XML のタグの形式が微妙に違うことに気づかれたかもしれない。リスト 1 は「RSS 1.0」の形式であり、リスト 2 は「RSS 2.0」の形式であるが、この違いは実は本質的な意味を持っている。

リスト 1 とリスト 2 のルート要素に注目してもらいたい。リスト 1 は <rdf:RDF> タグで始まっているのに対し、リスト 2 は <rss> タグで始まっている。とはいえ、両方とも RSS である。この違いの意味を知るには、RSS の歴史をひも解く必要がある。

RSS という名前は、Netscape 社が 1999 年 3 月に「RDF Site Summary」の略称として登場させた。これは Netscape 社のポータル MyNetscape に「チャンネル」を登録するための手段だった。この RSS が RSS 0.9 である。

RSS 0.9 は RDF を使って「見出し一覧」を記述した。RDF とは W3C が定義している「メタデータ」を記述するための言語で、Resource Description Framework の略称である。セマンティック Web を実現する基本技術にもなっている。

Microsoft 社はそれ以前にブラウザの Internet Explorer 4.0 で、RSS と同じような技術を、XML 形式の Channel Definition Format (CDF) として実現していた。しかし CDF は廃れて、RSS は残った。

Netscape 社は 1999 年 7 月に、RSS 0.9 の仕様に拡張を施して RSS 0.91 を発表し、著作権や日付情報などを入れられるようにした。その際、RDF に依拠することをやめ、独自の XML 形式に変更した。これに伴い、名称も「Rich Site Summary」になった。RSS という略称には変更がなかった。

こうした動きに対し、RDF ベースにこだわるグループが、拡張性を備えた新しい RSS の規格を発表した。これが RSS-DEV ワーキンググループから 2000 年 12 月にリリースされた RSS 1.0 である。RSS 1.0 の名称は再び「RDF Site Summary」に戻った。

RSS 1.0 は将来的に拡張性を持たせるため、「モジュール」という概念や機構を導入した。RSS コアモジュールに加え、Dublin Core モジュール、Syndication モジュールなどを組

【リスト 1】

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<rdf:RDF xmlns="http://purl.org/rss/1.0/"
  xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/
02/22-rdf-syntax-ns#"
  xmlns:dc="http://purl.org/dc/
elements/1.1/" xml:lang="ja">
  <channel rdf:about="http://www.gihyo.co.jp/
rss.php">
    <title>技術評論社</title>
    <link>http://www.gihyo.co.jp</link>
    <description>技術評論社発行の書籍や雑誌の情報を
提供しています。</description>
    <dc:language>ja-jp</dc:language>
    <dc:rights>Copyright (c) 2005, Gijutsu-
Hyohron Co., Ltd.</dc:rights>
    <dc:date>2005-06-30T15:20:36+09:00</dc:
date>
    <dc:publisher>株式会社技術評論社</dc:
publisher>
    <image rdf:resource="http://www.gihyo.
co.jp/gihyo.png"/>
    <items>
      <rdf:Seq>
        <rdf:li rdf:resource="http://magazine.
gihyo.co.jp/domingo/archive/Vol3"/>
        <rdf:li rdf:resource="http://magazine.
gihyo.co.jp/fce/archive/Voll"/>
        ...
      </rdf:Seq>
    </items>
  </channel>
  <image rdf:about="http://www.gihyo.co.jp/
gihyo.png">
    <title>技術評論社</title>
    <link>http://www.gihyo.co.jp</link>
    <url>http://www.gihyo.co.jp/gihyo.png</url>
  </image>
  <item rdf:about="http://magazine.gihyo.
co.jp/domingo/archive/Vol3">
    <title>domingo Vol.3</title>
    <link>http://magazine.gihyo.co.jp/domingo/
archive/Vol3</link>
    <description>今回の特集では、農を通して、エ
コロジーや人と人とのつながりについて考えるととも
に、... 紹介していきます。</description>
    <dc:date>2005-06-29</dc:date>
    <dc:subject>雑誌</dc:subject>
  </item>
  <item rdf:about="http://magazine.gihyo.
co.jp/fce/archive/Voll">
    <title>Fedora Core Expert</title>
    <link>http://magazine.gihyo.co.jp/fce/
archive/Voll</link>
    <description>巻頭特集では、Fedora Core の誕生
```

の経緯や特色、最新バージョンの注目ポイントについて紹介します。

```
</description>
  <dc:date>2005-07-02</dc:date>
  <dc:subject>雑誌</dc:subject>
</item>
  ...
</rdf:RDF>
```

【リスト 2】

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<rss version="2.0" xmlns:dc="http://purl.
org/dc/elements/1.1/"
  xmlns:sy="http://purl.org/rss/1.0/
modules/syndication/"
  xmlns:admin="http://webns.net/mvcb/"
  xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-
rdf-syntax-ns#">
  <channel>
    <title>週間総合ダウンロードランキング -
Windows</title>
    <link>http://www.vector.co.jp/magazine/
softnews/050629/n050629rank_week_win.html</
link>
    <description>Windows 全カテゴリーのダウンロー
ド数から集計した週間総合ランキング 05.06.20 ~
05.06.26</description>
    <dc:language>ja</dc:language>
    <dc:creator>articlemgr@vector.co.jp</dc:
creator>
    <dc:date>2005-06-27T00:00:00+09:00</dc:
date>
    <admin:generatorAgent rdf:
resource="http://www.vector.co.jp/magazine/
softnews/" />
    <sy:updatePeriod>hourly</sy:updatePeriod>
    <sy:updateFrequency>1</sy:updateFrequency>
    <sy:updateBase>2000-01-01T12:00:00</sy:
updateBase>
    <item>
      <title>1位 Lhaca デラックス版 1.20</title>
      <link>http://www.vector.co.jp/soft/win95/
util/sel66893.html</link>
      <dc:subject>フリーソフト</dc:subject>
      <description>DLL 不要で、... が可能</
description>
      <dc:date>2005-06-27T00:00:09+09:00</dc:
date>
    </item>
    <item>
      <title>2位 Lhaplus 1.51a</title>
      ...
    </item>
    ...
  </channel>
```

み込める。各モジュールのタグは、XMLの名前空間によって識別する。

一方、RSS 0.91の流れを引き継いだのは、UserLand社だった。UserLand社は、RSS 0.91を拡張して、2000年12月にRSS 0.92を発表した。RDFを使用しない規格である。

RSS 0.92はその後も拡張が続き、2002年8月にはRSS 2.0が発表された。RSS 2.0はRSS 0.9xとの互換性を保っている。このときRSSの名称は再び変更されたのである。RSS 2.0は「Really Simple Syndication」の略称になった。

RSSという略称は同じだが、元の正式名称がこれほど変わるのも珍しいだろう。「RDF Site Summary」という名称は、「サイトの要約情報をRDF技術で記述する」という意味だった。「Rich Site Summary」は「サイトの要約情報を、RDFにこだわらずに豊富に記述する」という意味になる。そして、「Really Simple Syndication」は「サイトの要約情報に限らず、配信を実に簡単に行う」ということである。技術の進歩と、RSSの使用目的の広がり微妙に名称の変化に表れていることは興味深い。

このように現在使われているRSSは、表面上は同じデータのように思えるが、バージョン番号によっては、内容も正式名称も異なるのである。ここまでの流れを、図5に示す。

大きく分けると、RDFベースのRSS 1.0、またはRDFに依拠しないXML形式のRSS 0.92またはRSS 2.0のいずれかになる。

参考までに、こうしたRSSの流れに対して、新しいコンテンツ配信技術が開発されている。これがAtomである。RSSの二つの流れ、そしてAtomという新しい流れの中で、今後は動向を注視しなければならない。

RSSを処理するアプリケーションは、多くの場合、RSSの両方の形式をサポートしているので、利用者としては心配はいらないが、RSSアプリケーション開発者は両方の違いを理解して注意深く設計する必要がある。

3. RSSリーダー

RSSアプリケーションの代表的なものは、RSSリーダーである。RSSリーダーは、RSSフィードの取得・購読を行う。

大きく分けると、RSSリーダーには二つのタイプがある。

- ブラウザ・メーラー型
- ティッカー型

ブラウザ・メーラー型は、Webブラウザやメールソフトの画面に似た構成になっている。「gooRSSリーダー」の画

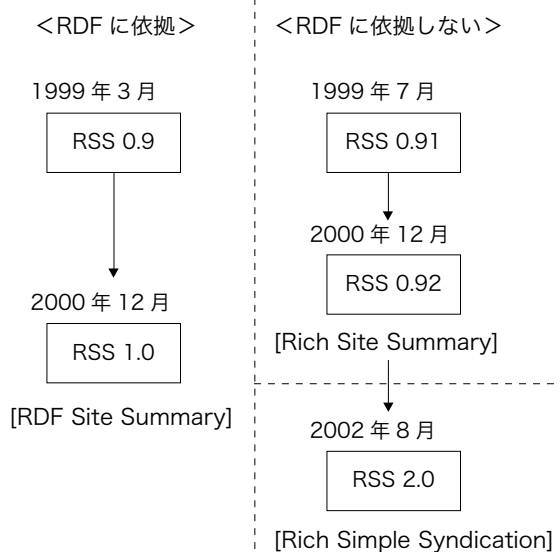


図5: RSSの発展



図6: gooRSSリーダーの画面サンプル

面サンプルを図6に示す。「gooRSSリーダー」は「glucose」というRSSリーダーをベースにしており、gooのポータルサイトのRSSを取得する定義がすでに行われている。また、ブラウザ・メーラー型としても、また後述のティッカー型としても使用できるようになっている。

RSSリーダーには、「gooRSSリーダー」のように独立したアプリケーションになっているものもあれば、Mozillaの「Firefox」のように既存のブラウザにRSS機能が組み込まれているものもある。

一方、ティッカー型は、デスクトップやタスクバーにある。デスクトップにあってニュースのテロップのように、配信された情報を流したり、タスクバーにあって、新しいRSSを取得したときにポップアップで通知したりする。

これ以外に、購読したい RSS を登録しておいて閲覧できるようにする機能を持つ Web サイト（ホスティング型）や携帯電話で機能する RSS リーダー（携帯型）もある。

まだ RSS リーダーを利用したことのない方は、この機会に RSS リーダーをダウンロードして使ってみることをお勧めする。意外と便利である。多くの RSS リーダーは無料であるが、有料のものもあるので注意したほうがよい。「gooRSS リーダー」は無料で、「http://reader.goo.ne.jp/」の画面からダウンロードできる。他の RSS リーダーやその機能比較については、「RSS リーダー」という語で検索すればたくさんのサイトを見つけることができる。

4. RSS の可能性

RSS はネットサーフィンの形態を変える可能性がある。従来、インターネット利用者はブラウザを使って Web サイトにアクセスして、人間の目で更新されているかどうかを確認してきた。RSS を使えば、RSS フィードを取得して更新されているかどうかを機械的に確認できるのである。そして、更新のポイントも入手できる。インターネットの利用スタイルに、まず RSS で更新の有無をチェックし、必要なときだけサイトをブラウザで確認するというやり方が加わるのである。

これは、サイトを構築して運営する側が、HTML を使っていかに見せるかという思考に加えて、RSS を使って必要な情報を必要な人にいかに効率的に配信するかという考え方を身につけていかなければならないことを意味する。また、自分のサイトの RSS を購読してもらうために、どのように工夫するかという発想も必要になる。

さらに、RSS リーダーの普及は新たな広告のビジネスモデルも生み出している。それは RSS 広告という分野である。

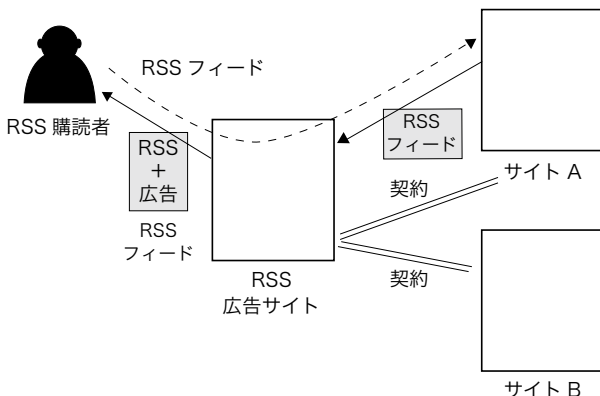


図7：RSS 広告の仕組み

RSS 広告の典型的な仕組みは図7のとおりである。サイト A は RSS 広告サイトと契約を結び、RSS フィードの URI を RSS 広告サイトに指定する。RSS 広告サイトはサイト A の RSS フィードのプロキシになる。サイト A の RSS フィードの購読者が RSS を取得しようとする時、RSS 広告サイトはサイト A から RSS フィードを取り寄せ、その内容に最適と思える広告情報を付加して、購読者に渡す。購読者は RSS の情報とともに、広告の情報も目にするのである。そこで広告がクリックされると、RSS 広告サイトと元のサイト A の運営者に広告料が支払われることになる。これが RSS 広告の一つのモデルである。

RSS 広告のメリットは、RSS に含まれるサイトの記事の要約情報を機械的に処理して、関連性の高い広告とマッチングさせることができる点にある。たとえば、「犬」の話題であるなら、「ドッグフード」の広告にしたり、「バイク」の話題であれば、「バイクメーカー」の広告にしたりできる。

さらに、RSS の可能性として期待できるのは「配信」の汎用的なコンテナとしての使い方である。RSS で、サイトの要約情報だけでなく、Web ページの全文を送ることもできるし、そのような動きがある。こうなると、Web ページのサイトにアクセスしなくても、RSS リーダーに巡回を指定しておけば定期的にページを取得できるようになる。

RSS を使って、「音楽」や「画像」の配信も可能である。そうすれば、最新の音楽データを RSS で希望者に配布する仕組みを作ることもできる。まさに、RSS は「サイトの要約情報」という枠を超えて、「配信技術」の基礎となる「コンテナ」または「ラッパー」としての役割を担うようになっている。

もちろん、RSS の中身は XML である。HTML はブラウザというソフトを得て、爆発的に普及した。XML の特性を生かした RSS はどうだろうか。RSS リーダー、または RSS リーダー機能を組み込んだブラウザ、あるいは RSS 機能に対応した新世代の Windows の普及によって、飛躍的に普及するのだろうか。

RSS は「データ配信」という分野と、ウェブにおける「情報過多の解消」という分野で、インターネット利用者の新たな行動スタイルを作り出すものとなるように期待している。

中山 幹敏

参考資料：
・フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/RSS>
・RSS - サイト情報の要約と公開
<http://www.kanzaki.com/docs/sw/rss.html>